

1 学校運営の中期目標

現状と課題

2020年代を通じて実現すべき「**令和の日本型学校教育**」の姿とは、一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することである。

これまでの「正解主義」や「同調圧力」への偏りから脱却し、子どもたちの思考を深める「発問」を重視していくことや、子どもたち一人一人の多様性と向き合いながら一つのチームとしての学びを高めていくことが重要である。誰一人取り残すことのない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向け、一人一人の児童が生涯にわたって能動的に学び続けることをめざしていく必要がある。

本校のスローガンは「**みんながつくる みんなの学校 長原小**」であり、「みんな＝自分」として、「当事者意識」を大切にしている。学校教育目標は、「**子どもも大人もいきいきしている学校**」であり、キーワードは、「**笑顔**」「**元気**」「**楽しい**」の3つである。そして、「**子どもに育みたい3つの力**」として、

一つ目は、「**自分も人も大切にする力**」(「思いやり」「自信」「自分が好き」「自尊感情」)であり、二つ目は、「**自分で考え、行動する力**」(「自分らしく」「主体的」「自分の言葉で語る」)であり、三つ目は「**自分からチャレンジする力**」(「夢」「目標」「あきらめない」「やりがい」)を掲げ、子どもも大人もそれぞれの力を高めている。

こうした「子どもに育む力」を常に意識しながら、教科指導や生活指導など、学校生活のあらゆる場面で、その実現に向けて教育活動を進めていく。なかでも、「安全対策」については「**子どもの命を守る**」ことを最優先課題として取り組んでいく。また、「学力向上」については、「**わかる・できる**」＝「**楽しい**」の原点を肝に銘じて、日々の授業力向上に取り組んでいく。「**体育的活動**」については、健康であること第一として、運動能力がバランスよくなるように日々の体力向上に取り組んでいく。「**読書活動**」については、「**本は財産**」と言われるごとく、児童にとっての貴重な経験の場になるため、数多くの本にふれることのできる活動に取り組んでいく。

そして、「めざす学校の姿」は「**学校と家庭と地域がひとつになって『自己肯定感』をもつ子どもを育てる教育活動を推進する**」ことである。「自己肯定感」や「自己有用感」をもつことはとても大切な課題である。「授業を開く」や「地域に開く」など、学校が常にオープンに家庭や地域等との連携・協働した教育を推進することは必須である。常に子どもを真ん中にして、学校と家庭と地域をつなぐことができる学校運営に取り組んでいく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ①令和7年度末の学校アンケート調査の「学校の生活は楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ②令和7年度末の学校アンケート調査の「自分の命は自分が守っている」項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ③令和7年度末の学校アンケート調査の「自分にはよいところがある」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ④令和7年度末の学校アンケート調査の「自分も人も大切にしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ⑤令和7年度末の学校アンケート調査の「自分からチャレンジしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ①令和7年度末の学校アンケート調査の「自分で考えて行動している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ②令和7年度末の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和3年度より0.5ポイント向上させる。 ※全国平均を1とした時の割合

【学びを支える教育環境の充実】

- ①令和7年度末の小学校学力経年調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ②令和7年度末の学校アンケート調査の「学校は学年だよりや学校だより、ホームページ等でよく知らせている」の項目について、肯定的に回答するサポーターの割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標

- ①小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 80%以上にする。
- ②年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ③年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- ①令和 5 年度末の学校アンケート調査の「学校の生活は楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。
- ②令和 5 年度末の学校アンケート調査の「自分の命は自分が守っている」項目について、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。
- ③令和 5 年度末の学校アンケート調査の「自分にはよいところがある」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
- ④令和 5 年度末の学校アンケート調査の「自分も人も大切にしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
- ⑤令和 5 年度末の学校アンケート調査の「自分からチャレンジしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 30%以上にする。
- ②小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.2 ポイント向上させる。
- ③小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。
- ④小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
- ⑤小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 60%以上にする。

学校園の年度目標

- ①令和 5 年度末の学校アンケート調査の「自分で考えて行動している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
- ②令和 5 年度末の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、前年度より 0.2 ポイント向上させる。 ※全国平均を 1 とした時の割合

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- ①令和 5 年度末の学校アンケート調査の「毎日の授業の中で ICT 機器が使われているとわかりやすいですか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
- ②ゆとりの日の設定を毎週 1 回設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は 4 日以

上、夏季休業期間以外の休業期間においては3日以上設定する。

学校園の年度目標

- ①令和5年度末の小学校学力経年調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。(R4 79.7%)
- ②令和5年度末の学校アンケート調査の「学校は学年だよりや学校だより、ホームページ等でよく知らせている」の項目について、肯定的に回答するサポーターの割合を90%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

☆各取り組み内容の達成状況 (A③C) と「3つの力」の結果

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

- A 取組内容①【安全・安心な教育環境の実現】
- B 取組内容②【豊かな心の育成】 ➡「自分も人も大切にしている」(3つの力)97%
- A 取組内容③【安全・安心な教育環境の実現】
- A 取組内容④【豊かな心の育成】
- B 取組内容⑤【豊かな心の育成】 ➡「自分からチャレンジしている」(3つの力)83%

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- B 取組内容①【誰一人取り残さない学力の向上】 ➡「自分で考えて行動している」(3つの力)
- C 取組内容②【健やかな体の育成】 91%

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

- A 取組内容①【生涯学習の支援】
- A 取組内容②【家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】
- A 取組内容③【人材の確保・育成としなやかな組織づくり】
- C 取組内容④【教育DXの推進】

☆総括 (●成果 ▲課題 ◆次年度に向けて)

- A③C評価が9項目、C評価が2項目と概ね目標を達成している。
- 「3つの力」については、様々な場面で伝え続けてきたことで子どもたちが意識する段階になってきた。
- 「発信」という点では、学校HPや学年だより等の継続した取り組みが定着してきており、サポーター（保護者）や地域の学校理解が進みつつある。
- 「教員の働き方改革」については、「働きがい」のある職場環境や仕事環境を生み出すために、「新たな教師の学びの姿」を追求した結果、教員一人ひとりの学びへの意識改革が生まれ、学校組織の活性化へとつながりつつある。
- ▲「3つの力」をより「見える化」する取り組みを意図的に構築していく必要がある。
- ▲起こりうる課題に対して「早期予防・早期発見・早期対応」を大切にし、大人同士の連携をより密にしていく必要がある。
- ◆「チーム担当制」のチャレンジを行い、学校教育目標に迫る。
- ◆「校時表の見直し」を行い、学校の実情に合った学習を実現する。
- ◆「やりたい研究」実践のバージョンアップを行い、大人がいきいきできる学びの環境を充実させる。

R5 最終評価⇒84% R5 中間評価⇒87% R5 最終評価⇒83%	
--	--

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員室に情報が集約されるよう、どんな些細なことでも何かあれば職員室に伝えることや「全児童確認ボード」を活用して、日々の児童情報を共有する。 ・「ミマモルメ」の全保護者の登録を図る。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の学校アンケート（サポーター）において「学校は問題が起こったときには迅速に対応している」の肯定的な回答をする割合を90%以上にする。 <p>R4 最終評価⇒88% R5 中間評価⇒92% R5 最終評価⇒97%</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育やキャリア教育、人権を尊重する教育（「ちがいを認め合う実践」）などを行い、自己を見つめ、自己肯定感を高める学習を行う。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の学校アンケート（子ども）において「自分にはよいところがある」の肯定的な回答をする割合を80%以上にする。 <p>R4 最終評価⇒79% R5 中間評価⇒79% R5 最終評価⇒80%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の学校アンケート（子ども）において「自分も人も大切にしている」の肯定的に回答する割合を80%以上にする。 <p>R4 最終評価⇒94% R5 中間評価⇒95% R5 最終評価⇒97%</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回（不審者・火事・地震（津波））の避難訓練に加え、交通安全指導、集団下校訓練など様々な児童の安全対策を行う。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の学校アンケート（子ども）において「自分の命は自分が守っている」の肯定的な回答をする割合を80%以上にする。 <p>R4 最終評価⇒95% R5 中間評価⇒96% R5 最終評価⇒98%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の学校アンケート（サポーター）において「学校は子どもたちの安全対策 	A

<p>に努力している」の肯定的な回答をする割合を90%以上にする。</p> <p>R4 最終評価⇒94% R5 中間評価⇒92% R5 最終評価⇒98%</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>・学年に応じた「体験活動」(1年「生活科の体験学習」「昔あそび」、2年「商店街見学」3年「今昔館」4年「大阪市立科学館」5年「読売新聞社」6年「ピース大阪」「大阪歴史博物館」等による体験や見学を通じて、キャリア教育の充実や情操豊かな心を育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・年度末の学校アンケート(子ども)において「体験学習や社会見学で積極的に活動することができる。」の肯定的な回答をする割合を80%以上にする。</p> <p>R4 最終評価⇒85% R5 中間評価⇒90% R5 最終評価⇒91%</p>	A
<p>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>・児童朝会や児童集会、また、運動会や児童会活動などの各種学校行事で「自分から自分らしく自分の言葉で語る」ことに子どもも大人もチャレンジする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・年度末の学校アンケート(子ども)において「自分からチャレンジしている」の肯定的な回答の割合を80%以上にする。</p> <p>R4 最終評価⇒84% R5 中間評価⇒86% R5 最終評価⇒83%</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>全市共通目標(小学校)</p> <p>① 目標の80%を3.1%上回っている。 3年(90.9) 4年(80.8) 5年(78.1) 6年(82.6) ⇒ 83.1% ※肯定的な割合で計算すると97.9%になります。 3年(95.4) 4年(96.2) 5年(100) 6年(100) ⇒ 96.5% 肯定的な回答をする児童の割合は96.5%と高い。最も肯定的な回答をする児童の割合は83.1%と目標を達成している。</p> <p>② 不登校児童の在籍比率は前年度から変化していない。 継続して学校全体として減少に取り組んでいるが、減少には至っていない。</p> <p>③ 不登校児童の改善は前年度から変化していない。 引き続き、学校全体として、家庭との連絡(家庭訪問や電話連絡等)を行っているが、前年度から変化していない。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 目標の85%を1%上回っている。 各学級での活動や行事等の様々な取り組みを計画し、実施してきた結果、学校が楽しいと思う児童が増えた。</p> <p>② 目標の90%を8%上回っている。 計画的な各種訓練や集団下校、児童朝会等での呼びかけにより児童の安全への意識</p>	

は高まっている。

- ③ 80%と目標は達成した。

自己肯定感を高める取り組みを学級や学校全体で行っていくことで目標を達成することができた。

- ④ 目標の80%を17%上回っている。97%と高い数値で目標は達成した。

3つの力を意識できるよう関わっていくとともに、気になる言葉や行動に対しては継続して指導することで目標を達成することができた。

- ⑤ 80%と目標は達成した。

目標は達成したが、中間より4%下回った。

年度目標の達成に向けた取り組み内容、進捗状況を測る指標

- ① 目標の90%を7%上回っている。

97%と、前年度と比べ9%上昇している。

- ② 目標を達成することができた。

「自分にはよいところがある」 (目標)80%以上 →80%

「自分も人も大切にしている」 (目標)80%以上 →97%

- ③ 【子ども】目標の80%を18%上回っている。

【サポーター】目標の90%を8%上回っている

地域防災訓練や避難訓練の計画的に実施することができている。

- ④ 目標の80%を11%上回っている。

ゲストティーチャーや社会見学、体験活動など有意義な活動を行うことができた。

- ⑤ 目標の80%を3%上回っている。

目標は達成したが、中間より4%下回っている。

改善点

全市共通目標 (小学校)

- ① 肯定的な回答をする児童の割合は96.5%と高いが、否定的な回答が3.5%いる。今後もしじめに対する継続的な指導が必要。

- ② SC や SSW などの外部と連携を取りながら、不登校児童に寄り添った関りを継続していく必要がある。

- ③ 引き続き、学校全体として、家庭との連絡(家庭訪問や電話連絡等)を行い、SC や SSW などの外部と連携を取りながら不登校児に寄り添った関りを継続していく必要がある。

学校の年度目標

- ① 引き続き取り組んでいく必要がある。また、「楽しくない。」と答える14%の子どもたちを把握してその原因について分析が必要である。

- ② 引き続き、児童の意識を高めるため、計画的な各種訓練や集団下校、児童朝会等での呼びかけ等に取り組む。

- ③ 引き続き、自己肯定感を高める取り組みを学級や学校全体で行っていくようにする。

- ④ 引き続き、3つの力を意識できるよう関わっていくとともに、気になる言葉や行動に対しては継続して指導する。

- ⑤ 一人一人が挑戦しやすいような機会を増やし、支援するよう取り組んでいく必要がある。

年度目標の達成に向けた取り組み内容、進捗状況を測る指標

- ① 引き続き、職員室へ情報の集約や、全教職員に児童の情報の周知等を徹底していく。

- ② 自己肯定感の低い児童もいると考えられるため、自己肯定感や自尊感情を高められる

取り組みを行っていくようにする。

- ③ 次年度も避難訓練等を引き続き取り組んでいく必要がある。
- ④ 今後は、体験学習や社会見学等で目的意識をもち取り組めるよう、さらに学習を進めていくようにする。
- ⑤ より多くの児童がチャレンジしていくことができるような場の設定をする必要がある。

大阪市立長原小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標 (小・中学校)</p> <p>①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 30%以上にする。</p> <p style="text-align: center;">R4 経年調査⇒29.4% R5 経年調査⇒33.6%</p> <p>②小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.2 ポイント向上させる。</p> <p style="text-align: center;">R4 経年調査 国語 3年 0.77 4年 0.96 5年 0.84 算数 3年 0.84 4年 0.90 5年 0.89 R5 経年調査 国語 4年 0.96 5年 0.94 6年 0.83 (0.19P↑) (0.02P↓) (0.01P↓) 算数 4年 0.91 5年 0.89 6年 0.95 (0.07P↑) (0.01P↓) (0.06P↑)</p> <p>③小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。</p> <p style="text-align: center;">R4 経年調査⇒79.35% R5 経年調査⇒88.15%</p> <p>④小学校学力経年調査における「外国語 (英語) の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。</p> <p style="text-align: center;">R4 経年調査⇒78.1% R5 経年調査⇒77.2%</p> <p>⑤小学校学力経年調査における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 60%以上にする。</p> <p style="text-align: center;">R4 経年調査⇒59.2% R5 経年調査⇒69.7%</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>①令和 5 年度末の学校アンケート調査の「自分で考えて行動している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。</p> <p style="text-align: center;">R4 最終評価⇒87%</p>	<p>A</p> <p>C</p> <p>A</p> <p>C</p> <p>A</p> <p>A</p>

<p>R5 中間評価⇒89% R5 最終評価⇒91%</p> <p>②令和5年度末の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、前年度より0.2ポイント向上させる。 ※全国平均を1とした時の割合</p> <p>R4 男子 0.924P↓ 女子 0.768P↓ R5 男子 0.992P↓ 女子 0.846P↓</p>	C
---	----------

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>・ひらちゃん読書ノートを活用した読書習慣の定着や「ドリルタイム」の設定、また3年生以上の漢字検定の受検、4年生以上の自学ノートの活用を行い、基礎学力の向上をはかる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・年度末の学校アンケート（子ども）で「ドリルタイムをして学習が分かるようになりましたか。」「漢検合格を目指して、漢字の学習にコツコツ取り組みましたか。」の肯定的な回答をする割合を80%以上にする。</p> <p>ドリルタイム R4 最終評価⇒調査なし R5 中間評価⇒82% R5 最終評価⇒82% 漢字検定 R4 最終評価⇒調査なし R5 中間評価⇒77% R5 最終評価⇒81%</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>・なわとびタイム実施したり、体育の授業で跳躍力を高める活動を取り入れたりすることにより跳躍力を向上させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・前期（5月のスポーツテスト）と後期に立ち幅跳びの記録をとり、5月のスポーツテストの記録に比べて平均値を4cm向上することを目標とする。</p> <p>R4 最終評価⇒8.0 cm ↑ R5 中間評価⇒3.36 cm ↓ R5 最終評価⇒1.92 cm ↑</p>	C
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 目標の30%を3.6%上回っている。 話し合い活動を取り入れてきたが、自分の意見を伝えて終わりという児童が多い。</p> <p>② R5経年調査 国語 4年 0.96(0.19P↑) 5年 0.94(0.02P↓) 6年 0.83(0.01P↓) 算数 4年 0.91(0.07P↑) 5年 0.89(0.01P↓) 6年 0.95(0.06P↑)</p> <p>③ 目標の70%を18.15%上回っている。 観察や実験を通して自然事象に触れることができ、学習意欲の向上につながった。</p> <p>④ 目標の80%を2.8%下回っている。 C-NETと連携して取り組んできた。しかし、自信をもって英語を用いたコミュニケー</p>	

ションをとることが苦手な児童もいる。

- ⑤ 目標の60%を9.7%上回っている。

運動にしっかりと取り組むことができるように実施方法などを工夫して取り組んできた。

学校の年度目標

- ① 目標の80%を11%上回っている。

児童朝会等での呼びかけや言葉がけにより、児童の意識が高まった。

- ② 男女共に昨年度より上昇したが、目標達成には至っていない。

全国平均と比較して、下回っているが前年度より、男女ともに大きく改善している。

令和4年度

令和5年度

男子 0.924 ⇒ 0.992 0.068 ↑

女子 0.768 ⇒ 0.846 0.078 ↑

年度目標の達成に向けた取り組み内容、進捗状況を測る指標

- ① (ドリルタイム)目標の80%を2%上回っている。

(漢字検定) 目標の80%を1%上回っている。

ドリルタイムにデジタルドリルや百ます計算等を活用し、既習内容の復習や定着に向けた取り組みができた。また、漢検に向けて、漢検対策のプリントや漢検対策アプリを活用した学習も行った。

- ② 目標の4cmを2.08cm下回っている。

記録が向上しているが目標数値を達成することができていない。

改善点

全市共通目標 (小・中学校)

- ① 自分の意見を伝えて終わりではなく、対話までできるよう、どのような話し合いを行ったらよいのか、具体的に示し続け、よりよい話し合い活動になるよう、取り組んでいく。

- ② 反復練習するなど、基礎基本の学力向上に向けて、全校で取り組んでいく。

- ③ 観察や実験を行うことで自然事象に触れることが前提ではあるが、問題解決学習をベースに何のための実験、観察なのか児童が目的意識をもって観察や実験に取り組むことができるよう授業を構想する。

- ④ 自信をもって英語を用いたコミュニケーションをとることができるよう、スモールステップで英語に慣れ親しむことができるような授業展開(ゲーム等)をC-NETとの打ち合わせも深めることで構想する。

- ⑤ 運動にしっかりと取り組むことができるように実施方法などを工夫して、全校で継続して推奨し、取り組んでいく。

学年の年度目標

- ① 学習面や生活面において、自分で考えて行動することを意識するような活動を取り入れ、振り返りを行ったり、自分で考えて行動したりするような問いかけをして考える機会をつくったり、具体的にどのような姿が自分で考えて行動していることになるのか示したりするなど、引き続き取り組んでいく。

- ② 体育の時間だけでなく、体を動かす機会をさらに増やすことができるように取り組みを考えて実施していく必要がある。

年度目標の達成に向けた取り組み内容、進捗状況を測る指標

- ① 漢字の宿題等、普段からの漢字学習も漢検学習につながっているという意識をもって取り組んだり、個に応じた学習方法を自分で選択して学習するなど漢字の学習を継続し

て取り組んでいく。

- ② 休み時間や外遊びの推奨だけでなく長期休みや体育の時間で跳躍力の向上につながるような活動を取り入れていく必要がある。また児童の実態を考えて、「跳躍力」が児童の課題であるのかを検証する必要もある。

大阪市長原小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>【ICTの活用に関する目標を設定する】</p> <p>①令和 5 年度末の学校アンケート調査の(「毎日の授業の中で ICT 機器を使われているとわかりやすいですか。」)の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80% 以上にする。</p> <p style="text-align: right;">R4 最終評価⇒87% R5 中間評価⇒90% R5 最終評価⇒91%</p> <p>【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】</p> <p>②ゆとりの日の設定を毎週 1 回設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は 4 日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては 3 日以上設定する。</p> <p style="text-align: right;">R4 設定⇒夏季休業中 5 日 冬季休業中 5 日 R5 設定⇒夏季休業中 5 日 冬季休業中 5 日</p> <p>学校の年度目標</p> <p>①令和 5 年度末の小学校学力経年調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。(R4 79.7%)</p> <p style="text-align: right;">R4 経年調査⇒79.7% R5 経年調査⇒75.2%</p> <p>②令和 5 年度末の学校アンケート調査の「学校は学年日よりや学校日より、ホームページ等でよく知らせている」の項目について、肯定的に回答するサポーターの割合を 90%以上にする。</p> <p style="text-align: right;">R4 最終評価⇒97% R5 中間評価⇒98% R5 最終評価⇒99%</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>C</p> <p>A</p>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 8 生涯学習の支援】</p> <p>・全校一斉の読書タイム(「本につかる朝」)を毎週金曜日の朝学習として実施し、子どもたちがいきいきと読書を楽しむ環境をつくる。</p>	A

<p>指標</p> <p>・年度末の学校アンケート（子ども）において「読書タイムは楽しいですか」の肯定的な回答の割合を 80%以上にする。</p> <p style="text-align: right;">R4 最終評価⇒85% R5 中間評価⇒88% R5 最終評価⇒83%</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>・学校からの情報を、「学校だより」や「学年だより」「学校ホームページ」等で発信し続け、地域やサポーター（保護者）とともに学校をつくる。</p> <p>指標</p> <p>・本年度の学校ホームページのアクセス数を前年度の 5%増（32800 件）とする。</p> <p style="text-align: right;">R5.1 1.6 現在⇒22,000 件 R6.3.4 現在⇒32,828 件</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>・「新たな教師の学びの姿（主体的・自律的・常に学び続ける・個別最適な学び・協働的な学び）」に基づく研修（研究）により、いきいきとやりがいを持って自己成長することができ、学校組織を活性化する。</p> <p>指標</p> <p>・年度末の学校アンケート（サポーター）において、「教員は子どものことをよく考え、明るくいきいきと関わっている。」の肯定的な回答をする割合を 80%以上にする。</p> <p style="text-align: right;">R4 最終評価⇒90% R5 中間評価⇒97% R5 最終評価⇒96%</p>	A
<p>取組内容④【基本的な方向 6 教育DXの推進】</p> <p>・1 人 1 台端末の環境を活かし、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取り組みを行う。</p> <p>指標</p> <p>・年度末の学校アンケート（子ども）において「毎日、学習者用端末を操作しましたか。」の肯定的な回答をする割合を 80%以上にする。</p> <p style="text-align: right;">R4 最終評価⇒75% (昨年度は「毎日の授業の中で」) R5 中間評価⇒82% (今年度は「毎日」) R5 最終評価⇒78%</p>	C
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 目標の 80%を 11%上回っている。</p> <p style="padding-left: 20px;">デジタル教科書を中心に、学習者用端末や書画カメラ等 ICT 機器を毎日の授業の中で効果的に活用することができた。</p> <p>② 目標を達成することができている。</p> <p style="padding-left: 20px;">ゆとりの日や学校閉庁日をしっかりと目標通り設定することができている。</p> <p>学年の年度目標</p> <p>① 前年度より 4.5%減少している。</p> <p style="padding-left: 20px;">本につかる朝やおはなしたからばこを計画的に実施することで、落ち着いて読書に</p>	

<p>取り組む時間を確保してきた。また、ひらちゃん読書ノートによる意欲づけや本の紹介をしたり、昼休みの図書館開放や地域図書館からの団体貸し出し等読書環境を整えてきたが、前年度より肯定的回答が減少した。</p> <p>② 目標の90%を9%上回っている。</p> <p>毎月の学校だより、学年だよりや毎日のホームページ更新や行事予定の追加・変更等、保護者に対して情報を発信することができている。</p> <p>年度目標の達成に向けた取り組み内容、進捗状況を測る指標</p> <p>① 目標の80%を3%上回っている。</p> <p>本につかる朝やおはなしたからばこを計画的に実施することで、落ち着いて読書に取り組む時間を確保することができた。また、ひらちゃん読書ノートによる意欲づけや本の紹介をしたり、昼休みの図書館開放や地域図書館からの団体貸し出し等読書環境を整えたりすることもできた。</p> <p>② R6.3.4 現在 32828 件 目標の 32800 件を達成</p> <p>学校だよりや学年だより、学校ホームページ等を通して各学年の取り組みや学校行事、連絡事項等を保護者や地域に発信できている。</p> <p>③ 目標の80%を16%上回っている。</p> <p>外部講師による全体研修会やメンター研修等も活用し、教員一人ひとりが意識して学ぶ機会をつくった。また、一人1本の研究授業を計画、実施することもでき、教員の主体的な学びを進めることができた。また、ホームページでの発信や家庭訪問、電話連絡などを通して、保護者と密に連絡を取るなど、教員一人ひとりが子どものことを考えて行動することができた。</p> <p>④ 目標の80%を2%下回っている。</p> <p>デジタルドリルや心の天気、情報収集や資料作成、発表ノートや Teams 等、効果的に活用し、学校全体での学習者用端末の使い方のルールを教室掲示し、約束を守ることができるよう意識づけすることができた。</p>	<p>改善点</p>
<p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>① 引き続き、ICT 機器の効果的な活用についての研修や共通理解を図っていく必要がある。</p> <p>② 今後も継続して職場環境の改善に取り組んでいく。</p> <p>学年の年度目標</p> <p>① 引き続き、児童が読書を好きになるような読書環境を整える。読みに課題がある児童は、読書が好きになることが難しいので、まず流暢に読むことができるよう基礎学力向上のための取り組みを全校あげて行っていく。</p> <p>② 引き続き、取り組みを続けていく。</p> <p>年度目標の達成に向けた取り組み内容、進捗状況を測る指標</p> <p>① 継続して読書を楽しめるよう、取り組みを行い、読みに課題がある児童への取り組みも行っていく。</p> <p>② 今後も継続していくと共に、ミマモルメ等の機能を活用するなど新たな情報発信できればさらなる学校理解へとつながる。</p> <p>③ いきいきとやりがいを持って自己成長することができるように、引き続き取り組みを続けていく。</p> <p>④ 引き続き、効果的に活用していくと共に、校内 ICT 研修会での情報交換や共有をすることで、学校全体でより効果的に活用できるようにする。また、学校全体で学習者用端</p>	

末の使い方や時間、マナーを守ることを共通理解し、家庭学習での活用を目指していく。